

1. 3. 10 健康・スポーツ科学講座

1. 対象学年 2・3年生

2. 担当教諭 菊地孝太郎・遠藤真紀子
授業協力者 村上恭子

3. テーマのねらい

この講座では、健康やスポーツについて各自の関心のあるテーマを選び、調査や実践から得られた結果を考察し、レポートにまとめる学習を通して、以下の力を育てることをねらいとしている。

- ①健康やスポーツについて、自分の興味をもったことを調査する手順を知る
- ②情報を正しく判断できる力を育てる
- ③調べたことを実践し、批判的な立場からも考えられる力を育てる

インターネットの普及により、簡単にたくさんの情報を収集できる現代においては、情報の「質」を吟味することが大切である。自分に必要な情報を正しく収集するためには、情報の特性を理解し、収集の方法を検討し、集まった情報の信頼性を見極めて、「正しい情報」を選択する力が求められる。また、これらを「研究」としてまとめる際には、テーマを絞り、仮説を立て、その検証のために必要な情報の入手方法を考え、得られた結果をまとめ、自分の考えと比較し、わかりやすく伝える力も求められる。さらに、相互に研究を読みあうことで、コミュニケーションをはかることも期待できる。このような過程を、テーマ研究を通して経験させ、考えさせたい。

4. 学習活動の計画

下表の学習計画に従って、スポーツ分野か健康分野から研究テーマを選び、個人またはグループで調査活動・実践活動の計画を立てた。スポーツ分野は、社会とスポーツ、スポーツと私について、「する」「みる」「支える」の3分野から、健康分野は、心身の関連、健康と環境、病気分野から、テーマを設定した。テーマ研究発表会では、研究の概要を示すパワーポイントとレポートを展示発表した。

回	月日	学習内容
①	5月6日(金)	オリエンテーション・テーマ探し
	5月中 ☆資料収集	☆資料収集：テーマに関係のある資料を3つ探し、その要旨を「課題I」に記入し、6月2日に持参する
②	6月2日(金)	テーマ決め・研究全体像の構想
③	6月9日(金)	調査活動 →調べてわかったことを記録する 文献(本を一人2冊以上調べる) インターネット(3サイト以上調べる)
④	6月23日(金)	その他の資料(新聞・雑誌・ビデオなどを調べる) 実践計画 →必要なら実践前データを取る
⑤	7月7日(金)	<中間まとめ> ・調べた内容をまとめて考察を加える ・実践の計画を立てて必要な準備を進める
	夏休み中	☆実践計画
⑥	9月8日(金)	<実践活動> ・実践・実験を行ってデータを取る
⑦	9月22日(金)	・アンケート実施・回収・分析
⑧	9月29日(金)	・取材実施・分析・レポートの作成 指導担当の先生とレポートの修正をやりとりする
⑨	10月27日(金)	レポート修正
⑩	11月8日(水)	・発表会準備 展示発表：パワーポイント作成
準備	11月9日(木)	

発表	11月10日(金)	テーマ研究発表会
まとめ	12月1日(金)	自己評価(評価表に記入)

5. 学習の概要

今年度の受講者は3年生2名、2年生19名の21名だった。個人で研究を進めた生徒は10名、グループで研究を進めた生徒は4グループ11名で、下記の研究テーマに沿って研究を進めた。

○スポーツを「する」分野

- ・ドロップショットによる影響(テニス)
- ・イメージトレーニング
- ・筋肉と体幹
- ・得点しやすいシュートとは(バスケットボール)
- ・フリーキックはどのコースに入りやすいのか(サッカー)
- ・PKにおいてキーパーがキッカーに与える影響(サッカー)

○スポーツを「みる」分野

- ・正しい観客のあり方を見直す

○スポーツを「支える」分野

- ・パラリンピアンがそのスポーツを続ける理由
- ・Jリーグ復興計画

○健康分野

- ・栄養と心理がパフォーマンスに与える影響
- ・成長期におこりやすいスポーツ障害
- ・栄養が体にもたらす影響
- ・身近なアレルギーの遺伝

6. 今後の課題

約半年という限られた時間の中で、「研究テーマ」を選び、文献をもとに仮説を立て、実践から得られたデータをまとめて考察する、という一連の作業は中学生にはかなりハードルが高い。受講生には、テーマの立て方、データのとり方、考察の重要性など、研究計画や研究のまとめ方について繰り返し指導した。それでも、研究方法を正確に書けない、データを活かせない、考察のポイントがわからないなど、レポート作成段階で苦勞する姿が今年度も見られた。

文献から得た知見と実際に得た結果をどのように考察させるか—これがテーマ研究指導において最も苦勞するところである。どうしてこの仮説を立てたのか、この仮説を検証するためにどのようなデータが必要か、自分たちにできる範囲で得られるデータはどんなものか、その結果をどう考察するか、レポートには何を書くか、どのように示せばわかりやすいか、それぞれの段階において、経験の中から学ぶことは大きい。失敗して初めてわかることもあるが、どうしてうまくいかなかったのかを考えることができれば、中学生の研究としては十分である。さらに、その学びを次年度のテーマ研究や、高校生以降の学習に活かしてもらえることを期待している。

指導者としては、外部機関とのつながりを十分に持たせられなかったことが残念である。各方面の専門家や実践者にインタビューをしたり、実際の施設を見学したり、という経験をもう少し取り入れたかった。また、生徒たちの柔軟な発想で新しいスポーツやルールを創造する、などの試みがあってもよいだろう。「研究」には、入念な計画や緻密な作業とともに、大胆な発想も必要である。